（一社）QBSアラムナイネットワーク

ＱＡＮ報 VOL.14

発行／2026年11月６日　発行者／QAN事務局　〒819-0395　福岡市西区元岡744 QBS支援室内　https://qan.mystrikingly.com/

第7回 QAN定時代議員総会を開催しました！

2026年6月28日、第7回定時代議員総会を開催し、85名のご参加を得て盛会裏に終了いたしました。
講演会：クラスメソッド（株）代表取締役社長 横田聡氏より、起業から年商1,100億円に至るまでの失敗と挑戦の軌跡をご講演いただき、多くの学びと刺激を得ました。
QANアワード：ファイナリスト4名（8期 山下康仁氏、4期 梅村真行氏、20期 権藤菜津姫氏、4期 寺松一寿氏）によるプレゼンテーションの結果、最優秀賞には20期の権藤菜津姫氏が選出されました。
懇親会：40名が参加し、横田氏を交えて期を超えた活発な交流が深まりました。
QANは今後も会員の挑戦と成長を支えるコミュニティとして活動してまいります。引き続き皆様のご参加とご支援をお願い申し上げます。



「あの日の言葉を、経営の原点に」 最優秀賞受賞者の声

QAN AWARD2026最優秀賞をいただきました。私の経営の根底には、QBS入試の最終面接で小城先生からいただいた忘れられない言葉があります。「九大は国立だ。国民の税金で学ばせてもらっている。だからQBSで学んだからには国民に還元できる経営者にならなければいけない」
この言葉は、当時会社員だった私の心に深く刺さり、QBS在学中の大きな問いとなりました。修了後も、経営の指針となっています。外資系製薬企業で約15年勤務後、2024年に株式会社ORARE（オラレ）を創業しました。妊娠・出産を機に、日本にはナチュラルな選択肢が少ないことに衝撃を受け、100%天然由来の選択肢を増やしたいという思いから、スキンケアの開発・製造と、地域の未利用資源等を活かした小ロットOEMに取り組んでいます。ORAREはまもなく4期目を迎えます。学びを社会に還元したいと始めた事業ですが、多くの方々に支えられていることを日々実感しています。事業を通じて人々の選択肢を増やし、日本のものづくりや地域の未来に貢献したい。この受賞を励みに、QBSで学んだ一人として、挑戦を続けてまいります。

株式会社ORARE代表　権藤菜津姫（20期）





QAN　webパートナーのご紹介

QAN　webパートナーシッププログラム　継続パートナーの皆様

AG! 株式会社 旭製作所

弁護士法人 Tsutsumi & Partners Law Office
堤＆パートナーズ法律事務所

株式会社 ニシイ

スタッフエージェント STAFF AGENT 九州 No.1を目指す人材会社
福岡で転職するならスタッフエージェント！ 最高のお仕事をご紹介します

司法書士法人 COM事務所

さんすいパートナーズ 税理士法人

MECHATRAX

チョウラジ

ドラッグストアモリ

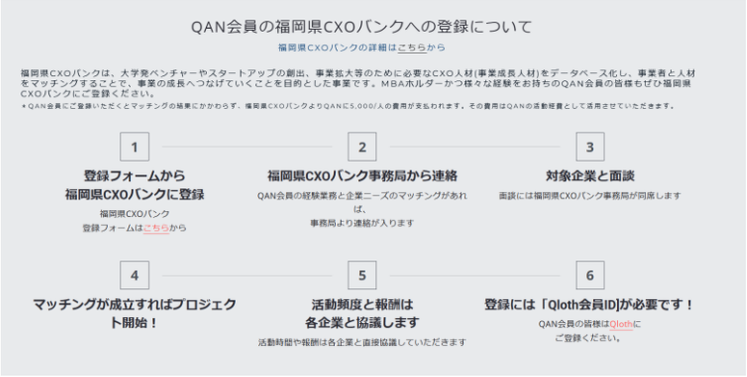
株式会社 ヤヒロ YAHIRO mozambique

つみきや

高野山スズキ KOUYASAN

QANでは、Webパートナーシップのお申込みを随時受け付けております。
貴社のバナーをQANのウェブサイトに掲載することで、より多くの方々への情報発信の場としてご活用いただけます。ご関心のある方は、QAN事務局（qan@econ.kyushu-u.ac.jp）までお気軽にお問い合わせください。

福岡県CXOバンク 登録のお願い



QAN・HP　https://qan.mystrikingly.com/

福岡県が運営する「CXOバンク」は、スタートアップや大学発ベンチャーの成長を支援するため、経験豊富な人材と企業をつなぐマッチング事業です。MBAホルダーである皆様のご経験は、地域の未来にとって大きな力となります。ぜひ、QANのHP内にある登録フォームよりご登録ください。登録いただいた方の人数に応じて、QANには活動支援費（5,000円/人）が支払われます。皆様のご協力が、ネットワークの更なる発展につながります。
※登録にはQloth会員IDが必要です。

QBS教員紹介（目代武史教授）

QBSの次の10年を、皆さんとともに

2016年にQBSに着任して、早いもので10年が経ちました。当時から在籍する教員は高田仁先生と私だけになり、気がつけば二番目の古株です。現在は「企業戦略」「生産管理」などを担当し、自動車産業を中心に、技術を競争力や事業価値に結びつける企業の取り組みを研究しています。今年度からは二度目の専攻長を務め、これからのQBSの姿を考える日々です。

最近、特に力を入れているのが、科学技術と経営をつなぐ新しい教育の仕組みづくりです。理系大学院生が専門研究と並行して経営を学び、二つの学位取得を目指す「コンセクティブ・デュアル・ディグリー」や、経営学をコンパクトに学べる理系大学院生向けの「マイクロMBA」の実現に取り組んでいます。また、これとは別に、企業の経営人材を対象とした半導体分野の研修プログラムも、この10月にスタートしました。

高度な科学技術が求められる領域ほど、ビジネスやマネジメントの力が重要になります。九州大学が持つ幅広い研究・教育の強みをQBSにつなぎ、さらに企業や地域社会との連携を深めることで、ビジネススクールの役割を広げていきたいと考えています。

その挑戦に欠かせないのが、修了生の皆さんです。多様な現場で培ってきた経験や知恵、ネットワークを持つ皆さんは、大学と社会をつなぐ大切な存在です。同時に、QBSとの新たな関わりが、皆さん自身にとっても新しい学びや出会い、ビジネスの可能性を広げる機会になればと思います。ぜひ、これからのQBSをともにつくる仲間として、力を貸してください。一緒に新しい挑戦を楽しみましょう！



2026年度理事会メンバーのご紹介

理事	宮本伸治（6期生）	
	王豪（9期生）	上海支部
	藤井智美（15期生）	新任
	宮崎通樹（17期生）	
	神谷誠（18期生）	会長
	宮田和三郎（18期生）	
	カービー理恵（18期生）	
	ジン・ホンギュ（18期生）	新任/東京支部
	花田理恵（20期生）	
	瓜生修一（21期生）	
	永松幸治（22期生）	新任
監事	中道健太（8期生）	
	西井健雄（15期生）	
顧問	高田仁（QBS教授）	
事務局	高橋久子	

2026年6月の総会におきまして、新たに以下の3名が理事に選任され、就任いたしました。

藤井 智美（15期）
ジン ホンギュ（18期・東京支部長）
永松 幸治（22期）

本年度はこの体制のもと、理事会一同、誠実に運営に努めてまいります。
今後とも、会員の皆様の温かいご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

QAN理事会一同

修了生リレー紹介（19期・薦田拓也さん）



19期の薦田（目代ゼミ）です。現在JR九州でマンション開発の業務を行っています。

さて、今年の私の最大のトピックになりますが、初めて富士山に登りました。想像以上に過酷な登山でしたが、不思議とQBSで学んだことと通ずるものがあるのではないかと、「富士登山」と「QBS」を重ね合わせてみました。

第一に実感したのが、通行料と入山規制のマネジメントです。山小屋はクリック戦争で予約、入山するだけで4,000円も必要で、そこまでする必要があったのかと思いましたが、これはまさに「需要のマネジメント戦略」そのものだったように感じます。価格や数量をコントロールすることで混雑という「ボトルネック」を解消し、安全性というサービスの品質を維持する。理論が現場に落とし込まれているなと肌で感じました。第二に感じたのが、「弾丸登山」の危うさです。私の登山中にも、対策不足で途中でギブアップして救助隊に助けを求めている人が散見されました。ビジネスでも目先の利益や過度な効率化は、致命的なリスクと表裏一体です。そして何より、山頂で御来光を拝んだ瞬間に確信したのは、「辛いことを一緒に乗り越えることで絆が深まる」ということです。険しい道を声を掛け合いながら登った仲間との時間は、かつて膨大な予習・復習や寝不足のグループワークを共に生き抜いた、QBSの同期たちとの時間と重なるところがありました。苦難をチームで共有し、乗り越えるからこそ、一生モノの強固なネットワークが生まれるのだと改めて実感しました。下山して私は「富士山に一度も登らぬ馬鹿、二度登る馬鹿」という言葉を深く痛感しています（笑）。多くの学び、これ以上ない景色、最高の絆を得られるのですから、人生で一度は登るべきです。ただ、一回でいいです、一回で。富士山もQBSも、私にとっては「人生で一度は全力で挑む価値のある」最高の時間でした。

次回は、JR九州の私にとって、ライバルでもあり、良き理解者でもあり、飲み仲間（笑）でもある、西日本鉄道の福田智隆さん（QBS22期）へバトンをお渡しします。

薦田拓也（19期生）

スタートアップ・キャリアイベント開催報告！

2026年8月24日、福岡市中央区大名の「GROWTH Ⅰ」にて、QBS・QAN主催「大学発スタートアップで切り拓く新たなキャリアの可能性」を開催し、平日夕方の開催にもかかわらず、定員（40名）を超える54名の方々にご参加いただき、大盛況となりました。

【第一部：登壇者によるご講演・体験談】大手企業などの安定したキャリアを離れ、不確実なスタートアップの世界へ飛び込んだゲスト陣より、熱のこもったお話をいただきました。

森山 哲雄 氏（カーボンエクストラクト（株）代表取締役社長）：大手商社でのキャリアや手厚い待遇、家族へのリスクに対する葛藤を抱えつつも、学生時代の志や「仲間を裏切らない」という強い責任感から、親会社からの独立・社長就任を決心されたエピソードをお話しいただきました。

青木 睦子 氏（ハインツテック（株）代表取締役社長）：外資系IT企業などを経て、未経験のバイオ分野で起業。「優れた技術を社会に届ける」という強い当事者意識と、一から構築したネットワークを武器に、事業を牽引する熱量をお伝えいただきました。

足立 穏則 氏（QBS17期／九州工業大学）：鉄道会社から大学発ベンチャー支援へ足を踏み入れた背景として、コロナ禍での意識変化や一次産業への強い情熱、「人生で一度は敷かれたレールから脱線したい」という決意について語られました。



【第二部：CXOバンクとキャリアへの第一歩】

スタートアップと専門人材を繋ぐ福岡県の「CXOバンク」について解説が行われました。事務局の中橋翔子氏（パーソルテンプスタッフ（株））からは「スタートアップはできる人が行く場所ではなく、挑戦する人ができる人になる場所」という心強いメッセージが送られ、副業・兼業からのスモールステップという選択肢も示されました。

最後になりますが、企画・進行の高田仁先生、会場をご協賛いただいたふくおかフィナンシャルグループ様、FFGベンチャービジネスパートナーズ様、ご登壇者の皆様に心より感謝申し上げます。